

令和元年台風19号の猛威

皆さんは、平成11年豪雨災害を記憶しておられることでしょうか。活発化した梅雨前線が、この佐久穂町にも最大24時間雨量245ミリに上る雨を降らせ、河川、町道、林道、多くの水路などが損壊しました。その際、お一人の尊い命も失われています。

一方、今回の台風19号「ハギビス」は本州を覆うほどの巨大な規模で、かつ勢力も維持したまま10月12日伊豆半島に上陸しました。佐久穂町でも古谷ダムにおいて、11日午後10時からの最大24時間雨量が468ミリ、そこから2キロほど遡った上石堂地籍では557ミリを観測しています。これは年間降水量900ミリから1,000ミリ程度の佐久穂町においては、わずか一日でその半分を上回るほどの量であり、冒頭の11年災と比較しても、にわかには信じがたい数値といえます。特に群馬県境一円に降り注いだ雨水は、立木をなぎ倒し、土砂を巻き込み、一部は土石流と化して家屋等を破壊しました。限界を超えて増水した河川は、堤防、護岸を削り取り、橋梁を損壊させ、隣接する多くの家屋に床上、床下浸水を引き起こしました。

人に対する被害がなかったことは不幸中の幸いといえますが、町民の皆様には、農地、山林被害等も含めて、この災害が過去に例を見ないほど甚大で、いかに多くの住民生活を損なうものであったかを知っていただければと思います。

発災から今に至るまで、国、長野県、岐阜県、長野県警察、陸上自衛隊、町消防団等の皆様には、被災状況の把握から警戒、様々な救援・復旧活動まで、言葉では言い尽くせないほどのご助力をいただきました。

町は今後も、各方面の支援を受けながら、そして何より町民の皆様のご協力の下、被災者の皆様が一日も早く以前の生活を取り戻せるよう、全力で復旧、復興に向けて進めてまいります。

佐久穂町長 佐々木 勝

